

三好大助

## 井戸

汲めども 汲めども  
底をついた かなしみに  
星たちはやさしい

ベランダから見下ろした  
赤信号の 点滅に  
鼓動をとかして

時間も乾いた  
涸れ井戸のなか

注がれる沈黙の なつかしさに  
安心して 透明でいられる

風

月明り

クラクション

鹿の産声

流星群

通過していくものたちと  
響き合い  
わたしはひとつのうたでした